芥川龍之介
田端転入110周年記念

企画展

友情から生まれたもの

文士村の青春アンサンブル

市川房枝

平塚らいてう

菊池寛

芥川龍之介

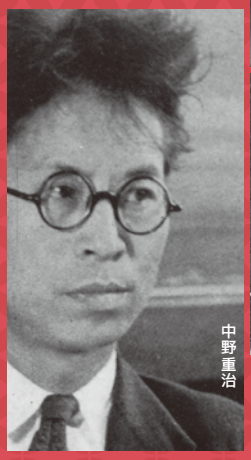
室生犀星

小穴隆一

堀辰雄

佐多稲子

萩原朔太郎


中野重治

入場無料

※休館日を除く
2024年6月8日(土)－9月21日(土)
10:00－17:00（入館は16:30まで）

会場 **田端文士村記念館** JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分
※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

休館日 月曜日（祝日の時は火・水曜）、祝日の翌日（土・日の時は翌火曜）

【主催・問合せ】（公財）北区文化振興財団 田端文士村記念館 ☎03-5685-5171 【共催】東京都北区

企画展

芥川龍之介田端転入110周年記念

友情から生まれたもの
――文士村の青春アンサンブル

大正時代後期、文壇で活躍する作家たちが田端に集まり、文士村は最盛期を迎えました。その中で、友人や後進を誘引し文士村形成へと大きく貢献したのが芥川龍之介と室生犀星です。田端に集った20～30代の若き文士たちは肩を寄せ合い、時には鼓舞し合いながら創作をし、お互いを高めていきました。本展では彼らの交流から生まれた雑誌『新思潮』『感情』『文藝春秋』『驢馬』や、初版本、直筆の作品、寄せ書きなどを紹介します。

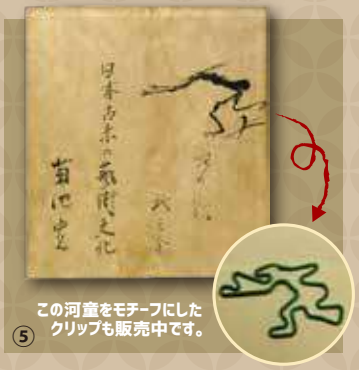
若き文士たちが田端で育んだ友情物語をご堪能ください。

①

②

③

④



⑤

この河童をモチーフにしたクリップも販売中です。

⑥

芥川の俳句は全集未収録の新発見か?!

① **初公開** 田端の料亭・天然自笑軒（てんねんじしょうけん）での親睦会の様子を描いた画賛幅

大正12年晩秋頃　画・岸浪静山（せいざん）　句・芥川龍之介、室生犀星、渡辺庫輔（くらすけ）、永見徳太郎

100年の歴史で唯一の『文藝春秋』田端発行号

② **新収蔵** 大正12年、菊池寛が創刊し現在まで続く雑誌『文藝春秋』。芥川は創刊から2年間にわたり、巻頭に作品を載せた。

雑誌『文藝春秋』大正12年11月号

田端文士が一堂に会した雑誌『驢馬（ろば）』

③ 当時無名であった堀辰雄、中野重治、窪川鶴次郎が、芥川や犀星の後ろ盾で発行した雑誌。表紙の題字も芥川の主治医で書家・下島勲が犀星の依頼により揮毫した。

雑誌『驢馬』大正15年5月特大号

芥川の著作装幀原画

④ 芥川の死後、遺稿などをまとめた『西方の人』（昭和4年12月）の表紙には、親友・小穴隆一により、芥川愛蔵の「マリア観音像」が描かれた。

小穴隆一「西方の人」装幀原画

芥川と菊池のコラボ作

⑤ 芥川は河童図を、菊池は「日本古來の藝術文化」と揮毫した合作色紙

詩壇への反逆・挑戦!! 雑誌『感情』

⑥ 室生犀星と萩原朔太郎の友情から始まった『感情』は第3号から終刊号まで田端の感情詩社で発行した。同人たちの日本近代詩に刻まれる名著も同詩社から生まれた。

右から雑誌『感情』大正5年8月号　多田不二『悩める森林』、室生犀星『愛の詩集』、萩原朔太郎『月に吠える』（表紙は複刻）

主催・問合せ
（公財）北区文化振興財団
田端文士村記念館
〒114-8523 東京都北区田端6-1-2
☎03-5685-5171
https://kitabunka.or.jp/tabata/　𝕏 @bunshimura

表面肖像写真：国立国会図書館「近代日本人の肖像」、小穴隆一のみ日本近代文学館より

（仮称）芥川龍之介記念館 ▶▶▶ 最新情報

2026年度、東京都北区は田端1丁目の旧居跡地に（仮称）芥川龍之介記念館を開館する予定です。芥川を単独で顕彰する日本初の記念館では、書斎の再現をはじめ庭や建物にも意匠を凝らし、当時を「体感」できる施設を目指しています。北区では現在、記念館の書斎再現にかかる経費に対して、寄附の受付を開始しました。魅力ある記念館開館に向けご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。

【寄附のお問合せ】北区役所文化施策担当課
☎ 03-5390-0093（平日9:00～17:00）

【寄附の方法】スマホやPCから or 納付書を使って金融機関から

詳しくはこちらをご覧ください。

（仮称）芥川龍之介記念館 完成予想図